

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	日本語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0084		科目区分	一般 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生産デザイン工学科 (共通科目)		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	印道 緑				
到達目標					
1. 留学に必要な日本語の文型・文法の知識と表現力を身につけることができる。 2. 留学に必要な日本語の文章を読み、また、聞いて理解することができる。 3. 日本語で日常会話・討論ができ、留学に必要な文章を書くことができる。 4. 日本語の習得と共に異文化への理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	留学に必要な日本語の文型・文法の知識と表現力が身につけている。		留学に必要な日本語の文型・文法の知識と表現力が概ね身につけている。		留学に必要な日本語の文型・文法の知識と表現力がほとんど身につけていない。
評価項目2	留学に必要な日本語の文章を読み、また、聞いて理解することができる。		留学に必要な日本語の文章を読み、また、聞いて理解することが概ねできる。		留学に必要な日本語の文章を読み、また、聞いて理解することがほとんどできない。
評価項目3	日本語で日常会話・討論ができ、留学に必要な文章を書くことができる。		日本語で日常会話・討論ができ、留学に必要な文章を書くことが概ねできる。		日本語の日常会話・討論や、留学に必要な文章を書くことがほとんどできない。
評価項目4	日本語の習得と共に、異文化への理解を深めることができる。		日本語の習得と共に、異文化への理解を深めることが概ねできる。		異文化への理解を深めることがほとんどできない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。					
教育方法等					
概要	本講義では留学生の日本語レベルに沿った文型・文法の習得、および漢字語彙・表現力の養成を中心に授業を行う。その上で、読解、会話・討論、作文・発表の総合的な能力を身につけることを最終目標とする。				
授業の進め方・方法	外国語習得には「聞く」「読む」という理解能力と「話す」「書く」の発信能力があるが、この授業では文型・文法、漢字語彙力などの基礎的知識をもとに、読解を行い、さらに会話・討論、作文・発表へと発展させる。				
注意点	授業内容の予習、復習を欠かさないように、講義に臨むこと。また、作文等の課題は必ず期限までに提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	I 文型・文法2-1	レディネステストによる日本語能力の確認。	
		2週	I 文型・文法2-2	前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。	
		3週	I 文型・文法2-3	前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。	
		4週	I 文型・文法2-4	前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。	
		5週	I 文型・文法2-5	前期に引き続き、より複雑な文法表現と漢字語彙を習得する。	
		6週	I 読解 2-1	より深いレベルの読解力養成。敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるようになる。	
		7週	I 読解 2-2	より深いレベルの読解力養成。敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるようになる。	
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
	4thQ	9週	II 読解 2-3	より深いレベルの読解力養成。敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるようになる。	
		10週	II 読解 2-4	より深いレベルの読解力養成。敬語表現を学び、状況に応じた適切な表現ができるようになる。	
		11週	II 討論・作文2-1	これまでに学習した文法表現力をもとに、会話及び作文の応用的運用能力を習得する。	
		12週	II 討論・作文2-2	これまでに学習した文法表現力をもとに、会話及び作文の応用的運用能力を習得する。	
		13週	II 討論・作文2-3	これまでに学習した文法表現力をもとに、会話及び作文の応用的運用能力を習得する。	
		14週	II 討論・作文2-4	これまでに学習した文法表現力をもとに、会話及び作文の応用的運用能力を習得する。	
		15週	II 作文・発表2	テーマに沿った作文を書き、それをスピーチとして発表する。	
		16週	定期試験	9～15週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3		
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3					

評価割合

	試験	小テスト等	演習・レポート	発表	相互評価	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0